

今日は5、6時間目にも神戸新聞の記者の方が来て下さり、授業をしてくださいました。まず最初に神戸新聞が出来るまでの過程を見ました。

その重複では、色々なことを学べ、神戸新聞は一時間に18万部発行していることを知り、とてもおどろきました。その後、大谷さんの右ひじ手術成功の見出しを6文字でまとめると「ラフプリントがはずかしかったです。次は担任のくわ田先生のインタビューを見ました。意外なしゃみがあったのでおどろきました。次は2人ペアになって相手のインタビューをしました。楽しかったです。

その後色々話してくれました。そこで新しく「5WIH」と言う言葉を知りました。分かりやすい例など教えてくれたのでとても分かりやすかったです。神戸新聞の方々にまた来てもういたります。三好さん、ありがとうございました。

今日は、神戸新聞の記者の方からお話をうかがう事ができました。神戸新聞は、兵庫県の事がたくさんのっていて、兵庫県のみりょくがあふれています。

でも、みりょくを伝えるだけではなく、重大なニュースを伝える事もあります。

阪神・淡路大震災の時には、休む発行する等して被災地の状況をいち早く伝える事で、被災者の声となりました。

最近はテレビだけではなく、ネットでもニュースを見る事ができますが、その記事の元となるのは新聞だそうです。

正確な記事を書くために約500人の方々が関わっていると聞いてびっくりしました。私達の毎日の情報はたくさんの方々に支えられていていると分かり、とても勉強になりました。

今日は、神戸新聞の三好さんという方が
私たちに『新聞ができるまで』という内容を教えて
くださいました。

一度、社会の授業で習っていましたが、
そこに詳しい内容が入って、とても記憶に残り
ました。

説明が終わると、「約20文字の大谷選手の文を6文字
にまとめよう」というプリントをしました。

私の答えが惜しかったので、悔しかったです。
でも、三好さんには、「いい線いってるよ」と言われてとても
うれしかったです。

その後、私たちの担任の先生にインタビューがされました。
「カメラマンしたい人はいますか?」と言われ、たくさんの5年生が手を上げ、
最終けっせんのじゃんけんで私は負けてしまい、少し気を落として
しました。

先生のインタビュー後、2人ペアになりインタビューをし合いました。

なんだかいつもよりインタビューが上手になったように思えました。

最後に、三好さんへ色々な質問をしました。

三好さんは、どの質問にも丁寧に答えてくださいました。

今日は、とても楽しかったです。三好さん、ありがとうございました。

今日は新聞記者の方が来てくださいました。

新聞が出来るまでの教えてくださいました。

新聞は「取材」「編集」「製作」をして私たちの
もとへ届いていることが分かりました。

私が一番印象に残っていることは「5W1H」です。

5Wは「Where:どこで」「When:いつ」

「What:何を」「Who:誰か」「Why:なぜ」

1Hは「How:どのように」です。

この5W1Hは、ビジネスコミュニケーションで

つかわれます。

もう一つ印象に残ったことがあります。

それは「号外」です。

「号外」は速報の時などに使われるそうです。

私は新聞「号外」などと、速報の時などに

使われるなど、区別していることは知らなかったので、

知れてとても良かったです。

私は今日の新聞のお話で、とても大事なことを2つ

知りました。

それは「5W1H」「号外」です。

私は家で新聞は持っていないけれどお店で買って読みたいのです。

今日は、神戸新聞社の方に来ていただき、5、6時間目に新聞のことを教えていただきました。新聞作りの手順をはじめ、インタビューのレカたや、インタビューの時の写真のとりかた、実際に担任の先生にインタビューをしてその場で記事を作っていました。

私が一番ハジに残っているのは、友達と2人ペアになつて、インタビューをしたことです。聞いたことをその場で実せんできただので、とてもわかつやつかないです。次にハジに残っているのは、2つあって、1つ目は、新聞は1時間に18万部も印刷されていることで、もう1つは、インタビューのXモガ記者の人しか読めないとことです。1時間に18万部も印刷しているのは、とてもびっくりして、本当に1時間で18万部印刷しているのかどうかがうたがわしかったけれど、印刷している動画を見ると、1秒のうちに50まい以上も印刷していく本当なんだなと思いました。インタビューのXモガを見ると、モジモジしたものが多くて、これが文字だと聞いた時、ありました。

読みもうとこころめたけれど、どうかんぱくとも、ただのモジモジゃに見え、読みませんでした。このよ、6時間目 90分で、知らないことをたくさん知れてうれしかったです。もし、またこの授業を受けられるならぜひたいに受けたいなと思いました。